

HP Service Health Reporter

For the Windows[®] オペレーティングシステムとLinuxオペレーティングシステム

ソフトウェアバージョン: 9.40

統合ガイド

ドキュメントリリース日: 2015年1月

ソフトウェアリリース日: 2015年1月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2010 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

Adobe® は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

Microsoft® およびWindows® は、Microsoft Corporationの米国登録商標です。

UNIX® は、The Open Groupの登録商標です。

Oracle®、Oracle WebLogic®、およびJava® はOracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

IBMおよびWebSphereは世界の多くの国や地域で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを使用するには、HP Passportに登録してサインインする必要があります。HP Passport IDに登録するには、次のURLを参照してください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passportのログインページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

次のHP SoftwareサポートオンラインWebサイトをご覧ください。<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアのオンラインサポートでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアバッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート契約の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。To register for an HP Passport ID, go to:

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルに関する詳細は、以下のWebサイトにアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

HP Software Solutions Now は、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このWebサイトのURLは <http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp> です

目次

目次	4
その他の監視ソリューションとの統合	5
第3章: MyBSMとのSHRの統合	6
SHRをMyBSMと統合するための手順	6
手順1:SHRでのユーザーの作成および基本設定の設定	6
手順2:BSM/SHR LW-SSO認証の設定	14
手順3:SAP BusinessObjects Trusted Authenticationの設定	18
手順4:レポートコンポーネントXMLを生成し、MyBSMに読み込む	19
手順5:MyBSMページの作成およびレポートコンポーネントの追加	25
ベストプラクティス	26
レポートのドキュメントIDの検索	27
お客様からのご意見をお待ちしております。	30

その他の監視ソリューションとの統合

本項では、SHRをHPソフトウェアの監視ソリューションと統合することで、SHRレポートの起動および表示操作を簡素化し、向上させる方法についての情報を提供します。

第3章: MyBSMとのSHRの統合

本章では、HP Business Service Management MyBSMユーザーインターフェースでHP Service Health Reporter (SHR) レポートを表示する手順について説明します。SHRレポートは、MyBSMユーザーインターフェースから構成アイテム (CI) またはビジネスビューのコンテキスト内で起動できます。

SHRをMyBSMと統合することにより、コンポーネントギャラリーを拡張でき、SHRを起動せずにすべてのBSMおよびSHRレポートを1つの場所で集中的に表示できます。

SHRをMyBSMと統合するための手順

手順1:SHRでのユーザーの作成および基本設定の設定

前提条件として、MyBSMでページを作成、表示できる権限を持つユーザーアカウントをBSMすでに作成している必要があります。このBSMユーザーは、SHRレポートを表示する権限を持つSHRのユーザーでもある必要があります。

SHRはユーザー管理にSAP BusinessObjectsを使用します。SHRでユーザーを作成するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザウィンドウにアドレス<http://<ホスト名>:8080/CmcApp>を入力して、**SAP BusinessObjects中央管理コンソール (CMC)** にログオンします。

注: ホスト名には、SAP BusinessObjectsがインストールされたサーバーの名前を指定する必要があります。

図1.1: SAP BusinessObjects中央管理コンソールのログオン画面

HP Service Health Reporter

Log On to the Central Management Console | Help

Enter your user information and click Log On.
(If you are unsure of your account information, contact your system administrator.)

System: sh:6400

User Name: administrator

Password:

Authentication: Enterprise

Log On

SHRではHTTPS URLへのHTTP URLのリダイレクトがサポートされています。次の手順を実行します。

- a. 次のサービスを停止します。
 - HP_PMDB_Platform_Administrator
 - Business Objects Webserver
- b. 次のパスでweb.xmlファイルインスタンスを見つけます。
 - 管理UI:%PMDB_HOME%/ adminServer/webapps/BSMRApp/WEB-INF/web.xml.
 - InfoViewApp:%PMDB_HOME%/BOWebServer/webapps/InfoViewApp/WEB-INF/web.xml.
 - CmcApp:%PMDB_HOME%/BOWebServer/webapps/CmcApp/WEB-INF/web.xml
- c. web.xmlインスタンスで次を有効にします。

```
<security-constraint>
```

```
<web-resource-collection>
```

```
<web-resource-name>Entire Application</web-resource-name>
```

```
<url-pattern>/*</url-pattern>
```

```
</web-resource-collection>
```

```
<user-data-constraint>
```

```
<transport-guarantee>CONFIDENTIAL</transport-guarantee>
```

```
</user-data-constraint>
```

```
</security-constraint>
```

d. 次のサービスを開始します。

- HP_PMDB_Platform_Administrator
- Business Objects Webserver

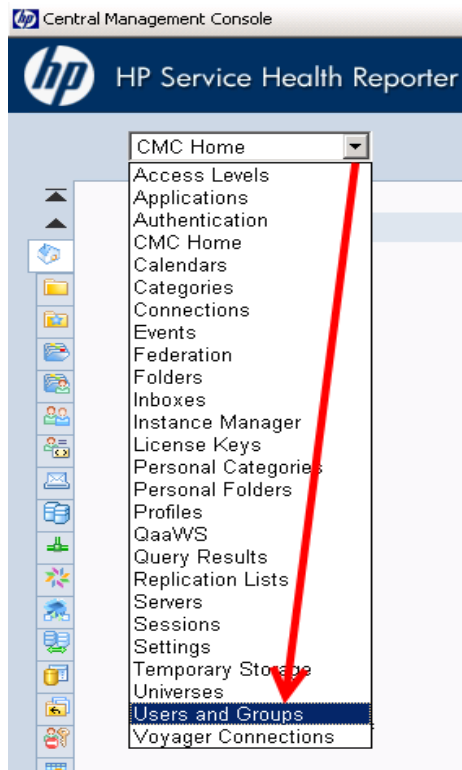
e. HTTP URLへのアクセスがHTTPSにリダイレクトされます。

注: 環境で次のポートが開いた状態であることを確認します。

- 21411 - HP PMDB Platform Administrator
- 21412 - SSLコネクターリダイレクト
- 8443 - SSLコネクターデフォルト
- 8080 - Apache Tomcat

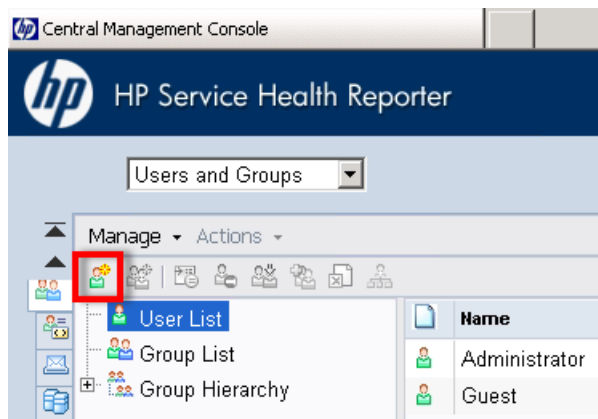
2. ドロップダウンボックスから[ユーザーとグループ]を選択します。

図1.2: CMCのユーザーとグループの画面



3. [ユーザーリスト] を選択し、図1.3に示す [新規ユーザーの作成] アイコンをクリックします。

図1.3: 新規ユーザーの作成



4. 図1.4 (a) に示すように、[新規ユーザー] ウィンドウにユーザーの詳細を入力し、[作成して閉じる] をクリックします。

注:

- a. アカウント名は、HP Business Service Managementで設定した既存のユーザー名と同じである必要があります。
- b. [Enterpriseパスワード設定] で [パスワードの期限切れなし] にチェックマークを付けます。

図1.4 (a): 新規ユーザーの作成画面

New User

Authentication Type: Enterprise

Account Name: admin

Full Name: BSM Admin

Email:

Description: BSM default admin

Enterprise Password Settings:

Password: [masked] Password never expires

Confirm: [masked] User must change password at next logon

User cannot change password

Connection Type:

Concurrent User

Named User

次の図に示すように、新しく作成したユーザーが[ユーザーリスト]に表示されます。

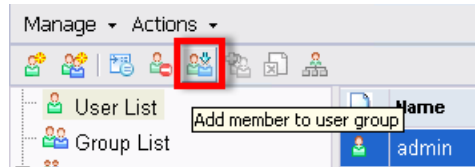
図1.4 (b) 管理

Name	Full Name	Type	Description	Date Modified
admin	BSM Admin	User	BSM default admin	Aug 13, 2013 7:12 PM
Administrator		User	Administrator account	Aug 13, 2013 4:44 PM
Guest		User	Guest account	May 26, 2013 7:23 AM

5. SHRユーザーを管理者グループに追加するには、次の手順を実行します。

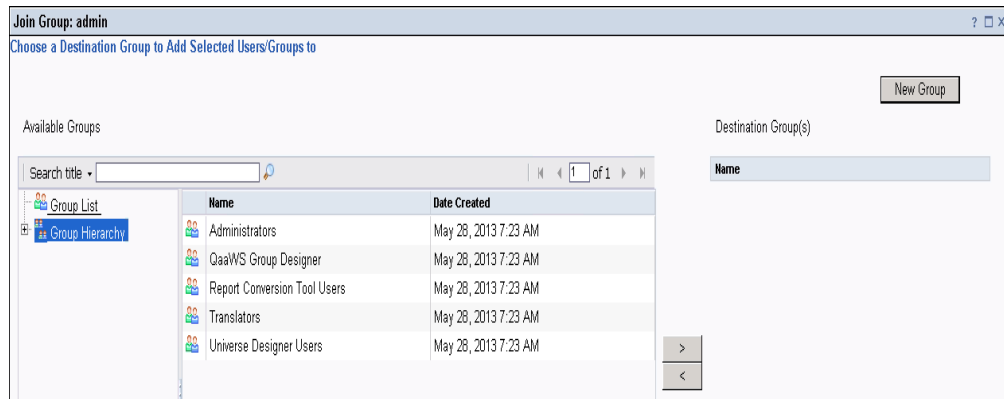
- a. 作成したユーザーを選択し、次の図に示す [ユーザーグループにメンバーを追加] アイコンをクリックします。

図1.5 (a)



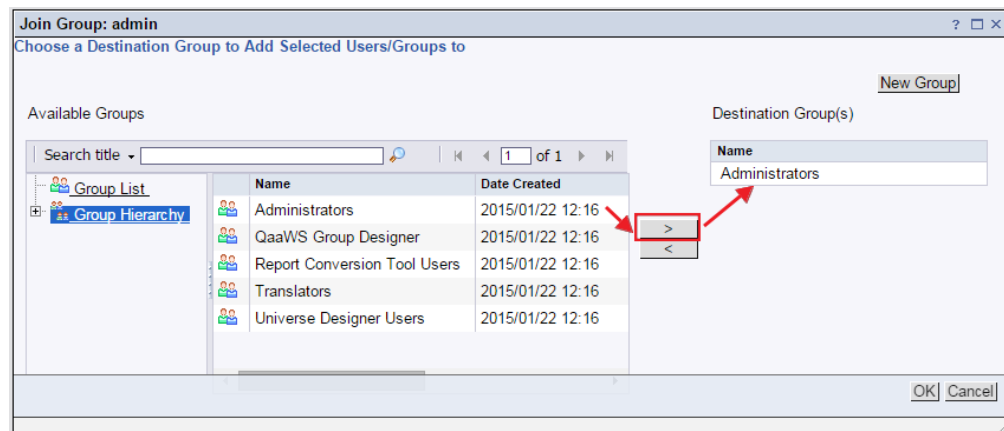
- b. [グループに追加] ポップアップウィンドウが表示されます。図1.5 (b) に示すように、<<ユーザー名>>が表示されます。

図1.5 (b)



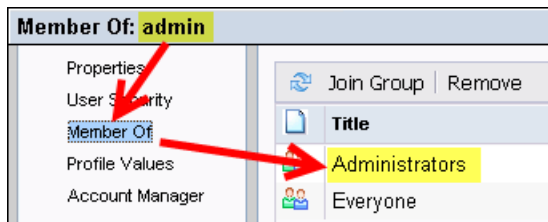
- c. [利用可能なグループ] から [移動先のグループ] に管理者を移動するには、図1.5 (c) に示すように、[管理者] を選択し、> ボタンをクリックして [OK] をクリックします。

図1.5 (c)



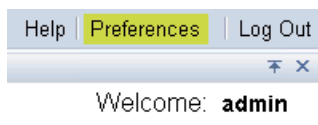
6. [ユーザーとグループ] 設定を検証するには、次の手順を実行します。
 - a. [管理] をダブルクリックし、作成したユーザーをユーザーのリストから選択します。
 - b. [次のメンバー] を選択し、図1.6で示すように、管理者が右側にリストされているかどうかを確認します。

図1.6



7. MyBSMコンソールからレポートにアクセスするときにレポートのドリルアップ/ドリルダウン機能を正常に機能させるには、ユーザーの基本設定を次のように設定する必要があります。
 - a. **http://<ホスト名>:<ポート>/InfoViewApp**に接続します。このホスト名は、SAP BusinessObjectsがインストールされているサーバーの名前です。
 - b. SHRユーザーとしてログオンします。
 - c. 図1.7 (a) に示す、右上隅にある[基本設定] をクリックします。

図1.7 (a)



- d. [全般] で、次の図に示すオプションを有効化します。

図1.7 (b) ユーザー基本設定の設定-1

Preferences - Administrator

▼ General

InfoView Start Page:

Home

My InfoView

Favorites

Inbox

Folder: (unspecified)

Category: (unspecified)

Dashboard: (unspecified)

InfoView Page Layout: (unspecified)

図1.7 (c) ユーザー基本設定の設定-2

Document Viewing:

In the InfoView portal

In a single fullscreen browser window, one document at a time

In multiple fullscreen browser windows, one window for each document

- e. **[Web Intelligence]** をクリックし、**[レポートのブロックのドリルを同期化]** オプションを選択します。必要な変更はこれのみです。その他の基本設定ではすべてデフォルトを使用します。**[OK]** をクリックします。

図1.7 (d) ユーザー基本設定の設定-3

Drill options:

- Prompt when drill requires additional data
- Synchronize drill on report blocks
- Hide Drill toolbar on startup

Start drill session:

- On duplicate report
- On existing report

図1.7 (e) ユーザー基本設定の設定-4

Preferences - Administrator

- ▼ Web Intelligence

Select a default view format:

- Web (no downloading required)
- Interactive (no downloading required)
- PDF (Adobe AcrobatReader required)

When viewing a document:

- Use the document locale to format the data
- Use my preferred viewing locale to format the data

手順2:BSM/SHR LW-SSO認証の設定

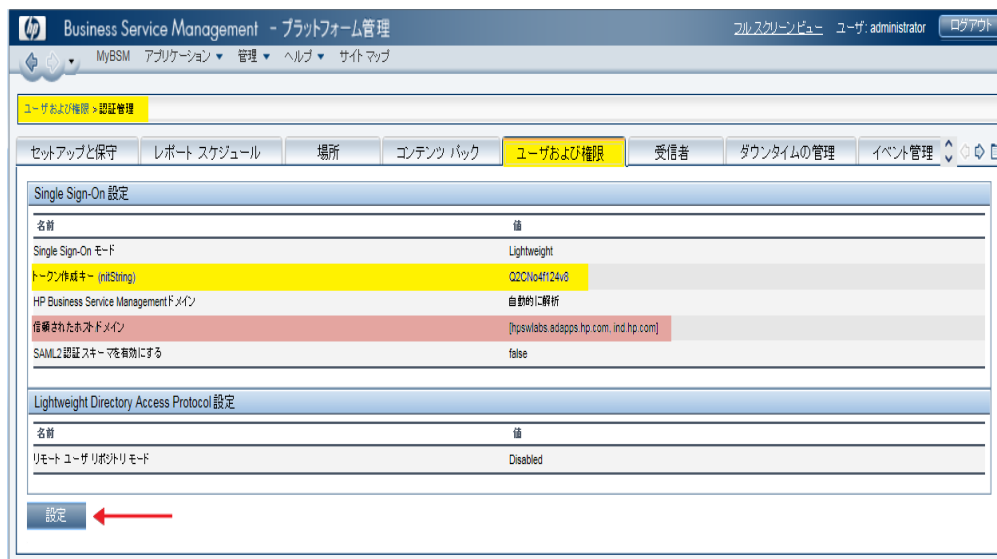
ライトウェイトシングルサインオン (LW-SSO) を使用する場合、MyBSMユーザーは同じユーザー資格情報を使用してSHRレポートにアクセスできます。

注: SAP BusinessObjectsはサードパーティのアプリケーションであるため、LW-SSOを使用するBSMにシングルサインオン (SSO) を直接アーカイブできません。MyBSMの場合、[手順2](#)の説明のとおり、SSOは最初にSHR管理Webアプリケーションと、LW-SSOを使用するBSMとの間においてセットアップされます。次に、[手順3](#)の説明のとおり、SHR管理WebアプリケーションとSAP BusinessObjects Trusted Authenticationを使用するSAP BusinessObjectsとの間でSSOが設定されます。

LW-SSOを設定するには、次の手順を実行します。

1. BSMからLW-SSOトークンをコピーします。
 - a. 管理者としてBSMシステムにログオンします。
 - b. **[管理]** > **[プラットフォーム]** > **[ユーザと権限]** タブに移動します。
 - c. **[認証管理]** をクリックし、**[トークン作成キー (initString)]** フィールドの値をコピーします。

図2.1



注: SHRとBSMのドメインが異なる場合、[設定]をクリックし、SHRドメインを[信頼されたホスト/ドメイン]リストに追加します。

2. SHRでLW-SSOを設定するには、次の手順を実行します。
 - a. ブラウザウィンドウにアドレス`http://<ホスト名>:21411/BSMRAppApp`を入力してSHR管理コンソールにログオンします。ここで、ホスト名は、SHRがインストールされているサーバーの名前です。
 - b. 左ペインで[管理] > [セキュリティ]に移動します。

図2.2



- c. [セキュリティ]をクリックすると、次の図に示す [LW-SSO] タブが開きます。

図2.3

セキュリティ

LW-SSO BO信頼された認証

LW-SSOの設定

有効

ドメイン hpswlab.adapps.hp.com

有効期限 (分) 60

Init 文字列 Q2CNo4f124v8

保護されたドメイン domain.com

保存

- d. [トークン作成キー (InitString)] フィールドから値をコピーし、[Init String] フィールドに貼り付けます。
- e. [有効] オプションにチェックマークを付けます。
- f. [ドメイン] フィールドにSHRドメインを入力します。
- g. [有効期限] フィールドに、LW-SSO設定の推奨値60分を入力します。
- h. SHRとBSMが同一のドメインでホストされる場合、[保護されたドメイン] フィールドの変更は不要です。

注:

- i. BSMがほかのドメインでホストされる場合、それを[保護されたドメイン] フィールドに追加します。
- ii. <インストールディレクトリ>\PMDB\data\config.prp, bo.cmsがSHRシステムの完全修飾名に設定されていることを確認します。

- i. 図2.3に示すように、[保存] をクリックして設定を保存します。

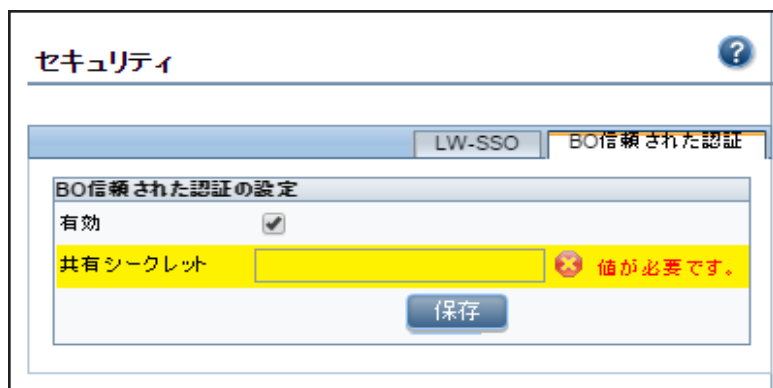
「LW-SSO構成の保存に成功しました。「HP_PMDB_Platform_Administrator」サービスを再起動して、これらの変更を有効にしてください。」という確認メッセージが表示されます。[手順3](#)の説明のとおり、このサービスを再起動します。

手順3:SAP BusinessObjects Trusted Authenticationの設定

SHR管理WebアプリケーションとSAP BusinessObjectsとの間でSSOをセットアップするには、次の手順を実行します。

1. SHRシステムで、**[管理]** > **[セキュリティ]** > **[BO信頼された認証]** に移動します。
2. **[有効]** オプションにチェックマークを付けます。
3. **[共有シークレット]** フィールドに任意の文字列を入力します。

図3.1



注: SAP BusinessObjects Trusted Authenticationは、SHR管理WebアプリケーションとSAP BusinessObjectsとの間の共有シークレットメカニズムに基づいて機能します。図3.1で入力した文字列が共有シークレットになります。この文字列は、SHR管理WebアプリケーションとSAP BusinessObjects全体で同一の共有シークレットとして使用されます。

SAP BusinessObjectsに同じ共有シークレットが設定されているかを検証するには、SAP BusinessObjects CMCにログインします。

4. **[保存]** をクリックして、設定を保存します。
5. Windowsサービスリストから**HP_PMDB_Platform_Administrator**サービスを再起動し、[「手順2:BSM/SHR LW-SSO認証の設定」](#) (14ページ)および[「手順3:SAP BusinessObjects Trusted Authenticationの設定」](#) (18ページ)の変更を適用します。

注: Linuxホストで、rootユーザーとしてログオンし、次のコマンドを実行します。

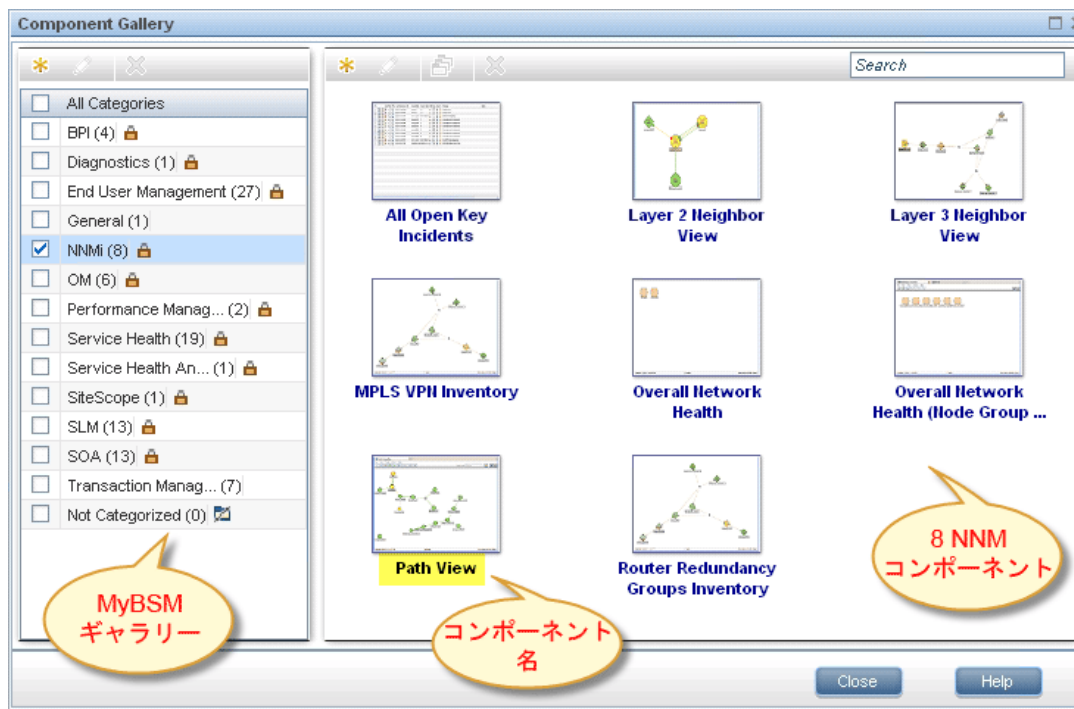
```
Service HP_PMDB_Platform_Administrator stop/start
```

手順4: レポートコンポーネントXMLを生成し、MyBSMに読み込む

図4.1に示す8つのNNMコンポーネントなど、すべてのMyBSMコンポーネントはBSMホスト上にあるXMLファイルに表わされます。SHRレポートをMyBSMのコンポーネントギャラリーに表示させるには、XMLを作成し、それをBSMホストでデプロイする必要があります。

SHRホストでComponentGeneratorコマンドを使用してコンポーネントXMLファイルを生成し、手動のコピー操作とJMXコンソールの使用を組み合わせ、そのXMLファイルをBSMホストに読み込みます。

図4.1



レポートコンポーネントXMLファイルを生成するには、次の手順を実行します。

1. SHRシステムにログオンします。
2. コマンドラインウィンドウ (Windowsの場合) またはシェルプロンプト (Linuxの場合) を開きます。

3. 次のコマンドを実行して、ComponentGenerator構文を確認します。

Windowsの場合: %PMDB_HOME%\bin\ComponentGenerator

Linuxの場合: \$PMDB_HOME/bin/ComponentGenerator

図4.2 (Windows)

```
Administrator: Command Prompt
Microsoft Windows [Version 6.1.7601]
Copyright (c) 2009 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>C:\HP-SHR\PMDB\bin\ComponentGenerator
usage: Component Generator XML
-c <Category Name>   Category Name
-d <Document Id>    Document Id
-f <Number>         Optional Parameter: Use non zero value if your
report does not accept any parameter
-h                  Help
-l <File Location>  File Location
-n <Component Name> Component Name
C:\Users\Administrator>
```

4. 次のコマンドを実行して、XMLファイルを生成します。

Windowsの場合: %PMDB_HOME%\bin\ ComponentGenerator -c <カテゴリ名> -d <ドキュメントID > -n <コンポーネント名> -l <出力ディレクトリ> -f <任意のパラメーター>

Linuxの場合: \$PMDB_HOME/bin/ ComponentGenerator -c <カテゴリ名> -d <ドキュメントID > -n <コンポーネント名> -l <出力ディレクトリ> -f <任意のパラメーター>

- カテゴリ名 = MyBSMのコンポーネントギャラリーに作成されるカテゴリです。
- ドキュメントID = レポートの一意のドキュメントIDです。詳細については、[「レポートのドキュメントIDの検索」\(27ページ\)](#)の項を参照してください。
- ファイルの場所 = コンポーネントXMLファイルが作成されるディレクトリです。
- コンポーネント名 = MyBSMのレポートに対して作成されるコンポーネント名（引用符を使用します）。
- 任意のパラメーター = レポートがビューまたはCIIDをパラメーターとして受け入れない場合はゼロ以外の値を使用します。

注: 上記のコマンドにより、出力ディレクトリに<コンポーネントカテゴリ><コンポーネント名>.uim.xmlファイルが生成されます。

図4.3 (Linux)

```
C:\Users\Administrator>C:\HP-SHR\PMDB\bin\ComponentGenerator -c SHR -d Adx_pEFdD99Lt3cMC59KL6s -l C:\Users\Administrator\Desktop -n "SM Heat Chart"

Category Name := SHR
Document Id   := Adx_pEFdD99Lt3cMC59KL6s
Component Name := SM Heat Chart
File Location := C:\Users\Administrator\Desktop

Component xml generated successfully. XML file location [C:\Users\Administrator\Desktop]
```

コンポーネントをMyBSMに読み込むには、次の手順を実行します。

1. BSMシステムで、コンポーネントXMLファイルを%TOPAZ_HOME%\conf\uimashup\import\toload\Componentsにコピーします。

注: BSMが分散環境にデプロイされている場合、XMLファイルはゲートウェイサーバー内にあります。

2. JMXコンソールを使用してXML (*.uim.xml) ファイルを読み込みます。
 - a. ブラウザウィンドウにアドレス<http://<bsmホスト名>:8080/jmx-console/>を入力して、BSM JMXコンソールにログインします。
 - b. ユーザー名とパスワードが要求されたら、BSM資格情報を入力します。
 - c. 図4.4 (a) に示す **service=UIMDataLoader** リンクをクリックし、図4.4 (b) に示す [**JMX MBeanビュー**] 画面に移動します。

図4.4 (a)

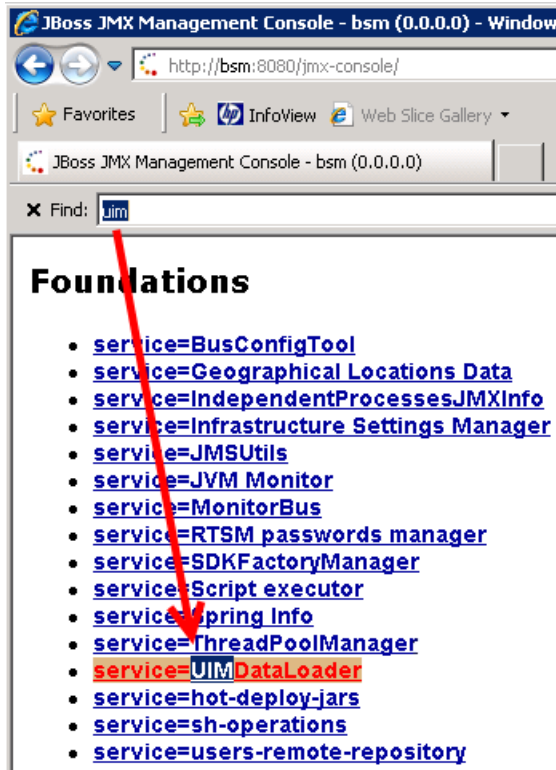
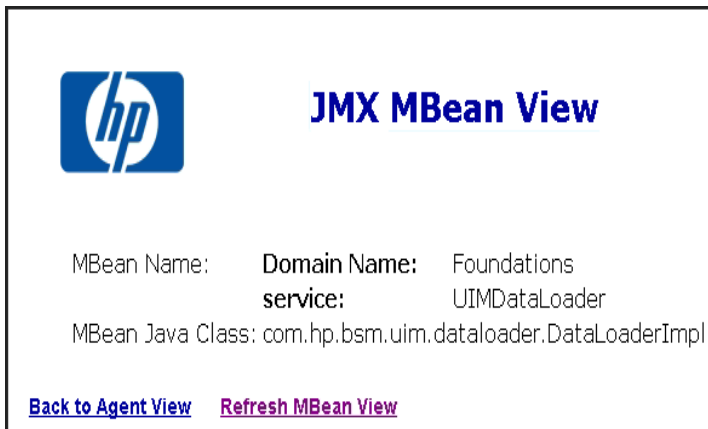


図4.4 (b)



d. **boolean loadComponentsGallery ()**という名前のメソッドに移動します。

図4.5

boolean loadComponentsGallery()

Load Components galleries from XML files. Optionally skip those that already exist on this server.

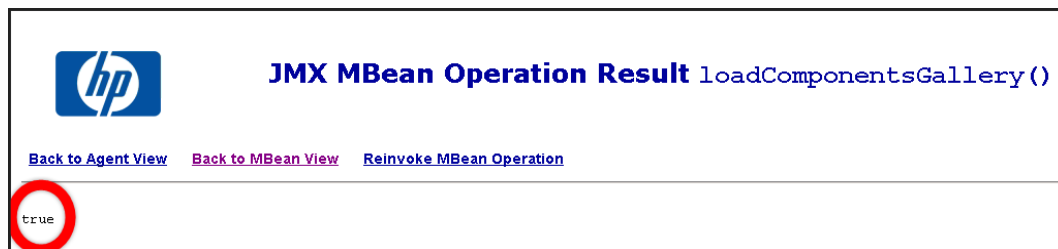
Param	ParamType	ParamValue	ParamDescription
customerId	int	0	Customer ID, '0' means that this operation will be executed for all customers
override	boolean	<input checked="" type="radio"/> True <input type="radio"/> False	If true: import ALL components from the file (overriding existing ones), if false: skip existing components
<input type="button" value="Invoke"/> ←			

- e. テキストフィールドに入力値として**0**を入力します。
- f. **[起動]** をクリックし、*.uim.xmlファイルを読み込みます。

読み込み処理が正常に完了すると、コンポーネントXMLが%TOPAZ_HOME%\conf\uimashup\import\loaded\Componentsフォルダーに移動します。

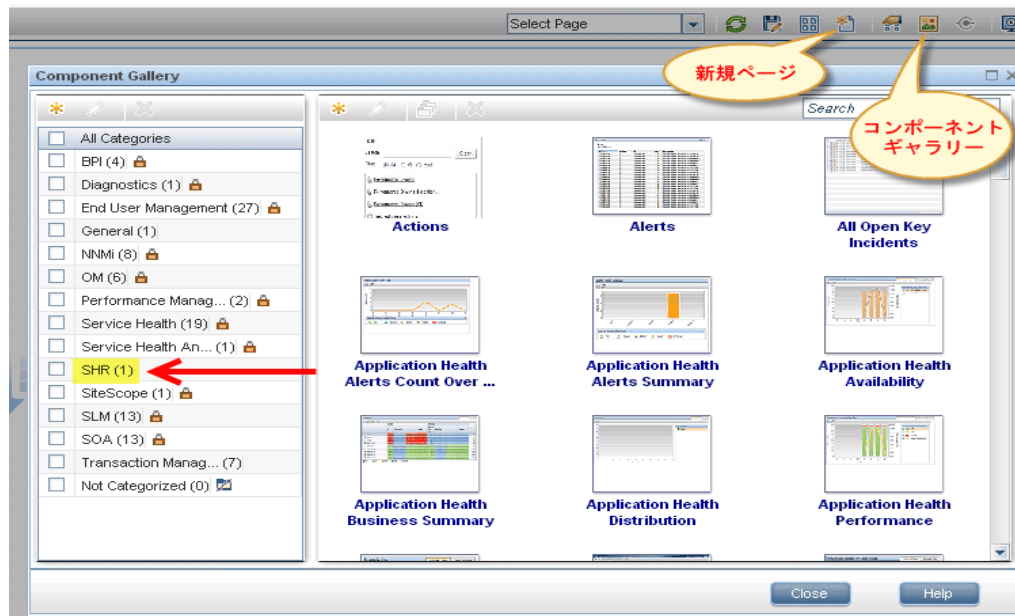
読み込み処理が失敗した場合は、コンポーネントXMLは%TOPAZ_HOME%\conf\uimashup\import\errorsフォルダーに移動します。

図4.6



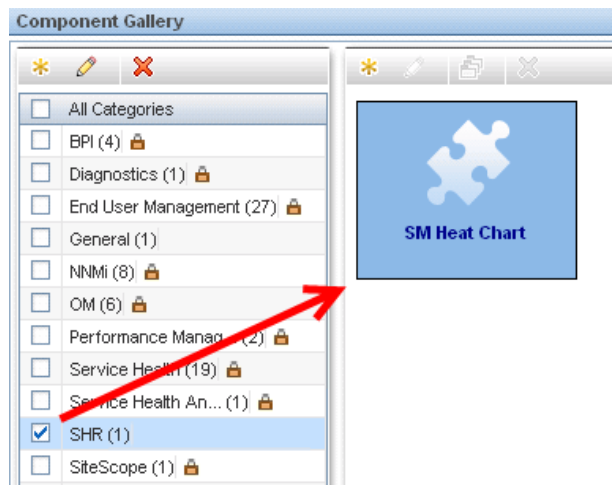
3. MyBSMコンソールでコンポーネントの可用性を検証するには
 - a. BSMユーザーインタフェースにログオンします。
 - b. **[MyBSM]** をクリックします。
 - c. **[新規ページ]** > **[コンポーネントギャラリー]** をクリックします。

図4.7



- d. コンポーネントがカテゴリ内で利用可能である必要があります。

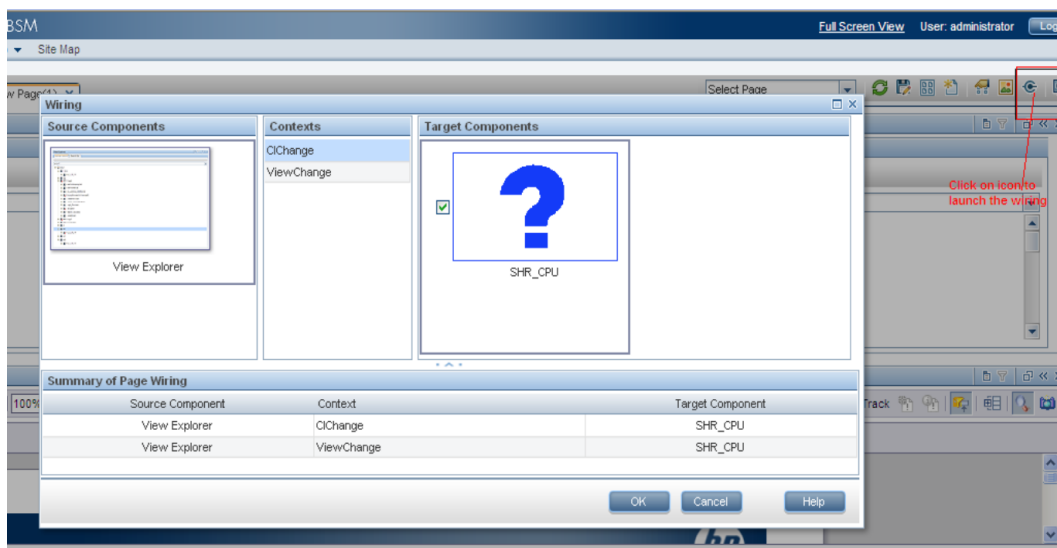
図4.8



4. ワイヤリングを検証するには、図4.9に示す[ワイヤリング]をクリックします。

注: デフォルトでは、すべてのレポートがCIChangeおよびViewChangeイベントでワイヤリング接続されます。レポートがイベントをサポートしない場合は、チェックボックスをクリアして、ワイヤリングを無効にします。

図4.9



手順5: MyBSMページの作成およびレポートコンポーネントの追加

MyBSMページを作成し、そこにSHRレポートをコンポーネントとして追加する必要があります。
MyBSMページを作成するには、次の手順を実行します。

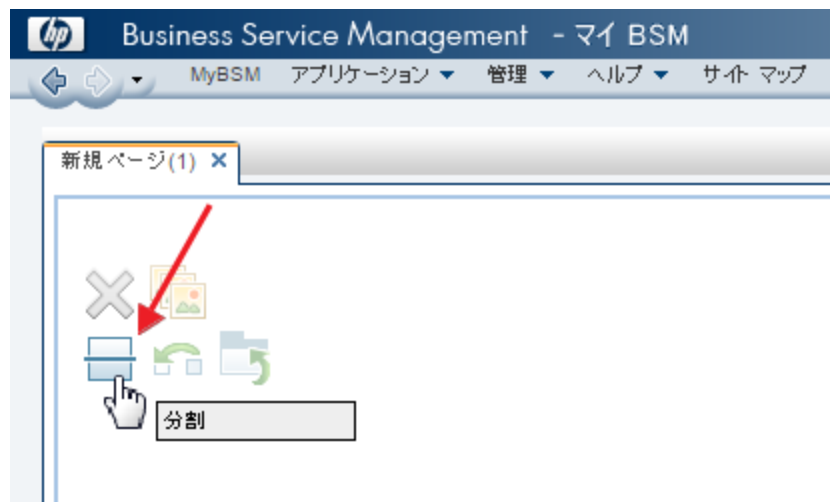
1. BSMユーザーインターフェースで、[新規作成] をクリックします。

図5.1



2. 要件に応じて、ページを分割します。

図5.2



3. [コンポーネント]をクリックし、ビューエクスプローラーなどのコンポーネントをドラッグドロップして、イベントをトリガーします。
4. 必要なSHRコンポーネントをドラッグアンドドロップします。SHRレポートをMyBSMページに表示できるようになります。
5. ページを保存して、MyBSMユーザーインターフェースから表示します。

ベストプラクティス

- 既存のSHRレポートテンプレートを使用して新規レポートを作成し、MyBSMに統合すると、すぐに使える(OOTB)レポートに対応した形式の機能や構造を利用できます。
- HP Business Service Management BSMのユーザー資格情報に設定されている既存のユーザー名を使用して、SAP BusinessObjectsで新規マッシュアップレポートを作成します。ユーザーが存在しない場合は、同じ名前を使用して新規ユーザーを作成します。
- すべてのSHR OOTBレポートがMyBSMと統合できるわけではありません。そのような統合できないレポートでは、プロンプトパラメーターが必須になります。BSM自体はそのパラメーターを生成できません。
- OOTB SHRレポートをMyBSMに統合するには、SAP BusinessObjects InfoViewのMashup Reportsフォルダーにそのレポートをコピーし、名前を変更(OOTBレポートCUIDと区別化)して、任意のカスタマイズを実行します。
- ビジネスサービスCIタイプのCI変更イベントで、ビジネスサービスCIがSM CPUヒートチャート

およびSMメモリヒートチャートにパラメーターとして渡されます。これは、このレポート内のビジネスサービスCIでのみサポートされます。

非ビジネスサービスCIをカスタムマッシュアップレポートで処理する必要がある場合、対応ディメンションからのCIID属性(たとえば、システム、アプリケーションなどのciID)を使用してciIDという名前のプロンプトを作成する必要があります。

- 時間別/日別のサマリーレポートを作成します。このレポートは、更新時間の大幅な削減によりMy BSMに容易に統合できます。
- パフォーマンスを向上させるため、デフォルト値の**日付範囲**プロンプトがレポートに含まれていることを確認します。インベントリレポートの場合、ビジネスサービス/ビュープロンプトの追加により、優れたレポートパフォーマンスを体感できます。
- 必要に応じて、プロンプトを追加します。ただし、ビジネスサービス/ノードCIIDなど、BSMによってレポートパラメーターが提供されている場合を除き、デフォルト値を指定します。
- ユニバースで新規オブジェクト/フィルターを作成するには、該当するユニバースの補足セクションにそれらを追加します。
- 新規レポートを作成する場合、コンテキスト関連の問題を回避するため測定値/クラスの各セットに対して新規データプロバイダーを作成します。
- マッシュアップレポートのレポート変数を最小限に抑えるようにします。
- 新機能および形式関連の考慮事項については、『SAP BusinessObjects Web Intelligenceガイド』を参照してください。

レポートのドキュメントIDの検索

1. ブラウザウィンドウにアドレス<http://<ホスト名>:8080/InfoViewApp>を入力して、SAP BusinessObjects InfoViewにログオンします。
2. [ドキュメント一覧]をクリックし、レポートを含むフォルダーに移動します。

図A.1

Title ^	Last Run	Type	Owner
SM Executive Summary		Web Intelligence Report	Administrator
SM Heat Chart		Web Intelligence Report	Administrator
SM System A		Web Intelligence Report	Administrator
SM System E		Web Intelligence Report	Administrator
SM System F		Web Intelligence Report	Administrator
SM System C		Web Intelligence Report	Administrator
SM System Inventory		Web Intelligence Report	Administrator

Total: 9 objects

- [レポート]を右クリックし、[プロパティ]を選択します。CUID値がそのレポートのドキュメントIDです。

図A.2

Properties - SM Heat Chart

▼ **General Properties**

Title:

ID, CUID: 1593, Adx_pEFdD99Lt3cMC59KL6s

File Name: frs://Input/a_057/006/000/1593/adx_pecdd99lt3cmc59kl6s.wid

Description:

Keywords:

Created: Aug 2, 2013 8:21 AM

Last Modified: Aug 2, 2013 8:21 AM

Last Run On:

Locale: English (United States)

お客様からのご意見をお待ちしております。

このドキュメントについてコメントがある場合は、電子メールで[ドキュメントチームにご連絡ください](#)。このシステムで電子メールクライアントが設定されている場合は、上にあるリンクをクリックすると、表題の行に以下の情報が付いた状態で電子メールウィンドウが開きます。

統合ガイド (Service Health Reporter 9.40) に関するフィードバック

電子メールにフィードバックを記入して、送信ボタンをクリックしてください。

使用できる電子メールクライアントがない場合は、上記の情報をWebメールクライアントの新しいメッセージにコピーして、フィードバックをdocfeedback@hp.comに送信してください。